

かながわ 助産師職能だより

第43号
2020年10月1日発行

公益社団法人神奈川県看護協会 助産師職能委員会 発行責任者 藤波 富美子

〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 TEL: 045 (263) 2901 FAX: 045 (263) 2905
E-mail kanakan1@basil.ocn.ne.jp URL http://www.kana-kango.or.jp

ごあいさつ

「一期一会」

皆様には日頃より当委員会にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

この度、助産師職能委員長に就任いたしました藤波です。微力ではございますが、助産師職能委員会の目標にあります母子保健、周産期医療サービスの充実に向けて尽力してまいりますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。

周産期医療サービスにおきましては、「母子の安全・安心な出産環境を整える」ということがあると思います。そのためには妊娠中からの継続した切れ目のないケアを実践することが必要となります。助産実践能力強化の体制整備はもちろんですが、多職種と協働し助産師一人一人が、周産期医療をめぐる環境の変化に対応しながらより実践力を強化していくことが求められているのではないのでしょうか。

令和2年度日本看護協会通常総会は、新型コロナウイルス感染症対応で6月11日に縮小開催されました。その中で福井会長が「2025年以降の少子超高齢社会の人口・疾病構造を見据え、あらゆる場、あらゆる人に対する良質な看護の提供を行なう体制を強化する必要性」を述べられました。

私は、少子化だからこそより一層、すべての妊産褥婦新生児およびその家族へ助産師のケアを提供するため

に、県内の助産師が力を集結し、一丸となって人材の育成と変革の継続が重要であると考えます。

また、最近ではハイリスク妊産褥婦、ハイリスク新生児の増加が顕著にみられますので、ごどもへの虐待予防や周産期のメンタルヘルスケアも今まで以上に地域連携を強化し、助産師の専門性を発揮することも求められると思います。

そのためには「倫理的感応力」「マタニティケア能力」「専門的自律能力」「ウィメンズヘルスケア能力」の4要素で構成される助産師のコア・コンピテンシーの強化、習熟も不可欠と考えます。お互い生き活きと輝きながら活躍できるように共にステップアップを図っていきましょう。

県内の様々な場所で働く助産師を繋げる役割を果たしていけるように10名の助産師職能委員が連携して、課題解決に向けて取り組んでいく所存です。

最後に、助産師活動の推進に向けてぜひ多くの方に看護協会会員になっていただき当委員会活動へのご参加、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

令和2年7月



助産師職能委員長
藤波 富美子

2020年度 助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	藤波 富美子	会 計	三浦 菜見子
副委員長	川邊 康子		熊丸 真奈美
書 記	松原 里美		土井 秀子
	平林 奈苗		二見 智枝子
	藤谷 直子	広 報	鈴木 千秋



*** 2020年度 ***
助産師
職能研修予定
(敬称略)



今さら聞けない分娩介助基礎技術

開催日◆ 2020年7月17日

講師◆ 山本助産院院長 山本 詩子

CTG 判読／母体感染リスクと対応

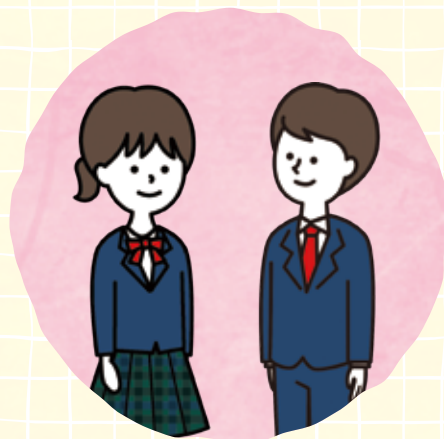
開催日◆ 2020年10月23日

講師◆ 神奈川県立こども医療センター産婦人科部長 石川 浩史

災害時母子救護の現状

開催日◆ 2020年11月27日

講師◆ 神奈川県立保健福祉大学教授 吉田 穂波



思春期の性教育

開催日◆ 2021年1月27日

講師◆ marimo 助産院代表理事 中島 清美

性感染症の支援

開催日◆ 2021年2月25日

講師◆ 芝レディースクリニック副院長 秋好 順子



*** 2019 年度 *** 助産師職能委員会 活動及び研修会 報告

2019 年 4月12日(金) 職能委員会

5月24日(金) 職能委員会

6月28日(金) 職能委員会

職能委員会・職能集会

7月26日(金) 研修会「周産期メンタルヘルス～妊娠期からの継続した支援～」

◆ 北里大学看護学部 准教授 新井 陽子

8月23日(金) 職能委員会

9月27日(金) 職能委員会

職能委員会・研修会

10月18日(金) 「分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）判読と母体感染のリスクと対応」

◆ 神奈川県立こども医療センター 産婦人科部長 石川 浩史

職能委員会・研修会

11月22日(金) 「妊娠期からの体づくり」

◆ ウパウパハウス岡本助産院 院長 岡本 登美子

12月20日(金) 職能委員会

職能委員会・研修会

2020 年 1月24日(金) 「産科救急～出血時の対応～」

◆ 横浜市立大学附属市民総合医療センター

総合周産期母子医療センター 講師 榎本 紀美子



助産師として働く中で、多様な家族関係や複雑な社会背景を持つ妊婦との関わりに、難しさを感じることがあります。周産期は、ホルモンの大きな変化により、メンタルヘルスに変調をきたしやすいと言われていますが、様々な背景を持つ妊産褥婦のメンタルヘルスを支えるために、必要な援助とは何かを学びたいと感じ、今回の研修を受講いたしました。

研修を通して、ハイリスク妊婦の継続支援のために、妊娠期から地域と連携する重要性と、スクリーニングツールを用いて、メンタルヘルスのアセスメントを行うために必要な視点を学ぶことができました。

妊娠期の支援は、育児支援チェックリストや二項目質問を用いた情報収集から始まります。その中で、「精神疾患合併」、「特定妊婦」、「家族関係が複雑」などの事例は、ハイリスク対象者として、より一層の支援を必要とする場合があります。ハイリスク妊婦の継続支援には、妊娠期からの地域との連携が重要であり、信頼関係を構築して、困った時にすぐに手を差し伸べられることが大切だと学びました。

また、産後支援のひとつとして、EPDSの活用方法についても改めて学ぶことができました。EPDSの構成要素は5つの内容から成り立っています。その内、質問項目の3～6番は不安に関する内容となっており、ここが陽性点数だった場合には、面談を通して原因を探ることにより不安の軽減につながられることを学びました。講義の中では、妊産褥婦さんへの問いかけの仕方や、具体的に困っていることを引き出すための言葉かけの例も多く、今後の参考にしたいと感じました。

講師の先生のお言葉で一番印象に残ったことは、ハイリスクの対象者と関わる時にラベリングしてしまうと、対象の本質を見失い重要な信頼関係の構築ができなくなるということです。自戒としてこの言葉を胸に今後の支援に活かしていきたいと思います。最後に、貴重な学びの機会を頂きありがとうございました。





分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）判読と母体感染症のリスクと対策の研修に参加して

横須賀共済病院 ◆ 小澤 彩

妊娠・分娩管理を行う助産師にとって、CTG判読は必須であり、ハイリスク妊産婦を管理する病院では、感染症への早期対応も重要です。そこで、知識の向上と判断力を養うことを目的に今回の研修に参加させていただきました。

CTG判読の講義は、症例を通して「どこに着目するか？異常所見は？胎児の状態は？どのような対応が必要か？」を考えた後に解説があり、大変わかりやすい内容でした。特に印象的だったのが、胎児心拍基線をどこでとるかによって、一過性徐脈か一過性頻脈か、どちらにもとれるような症例がありました。この症例から、胎児心拍基線を定める重要性を改めて感じました。また、CTGを判読する上で基線細変動は最重要項目であり、基線細変動を正確に評価するために、正しい位置にモニターを装着することが大切だと再認識しました。CTGは胎児の状態を確認する大切な指標になるため、今後もモニターをみる目を養っていきたいと思いました。

母体感染症の講義では、子宮内感染と脳性麻痺の関連性として、子宮内感染がある場合、CTGの異常所見が軽度でも脳性麻痺となることがあり、炎症があつて高度の低酸素、酸血症、その他の原因があると脳性麻痺になりやすいということを知りました。また、妊婦は劇症型A群溶血性連鎖球菌（GAS）感染症のリスクが高く、子宮内胎児死亡、流産・死産が急激に進むことが多いと学びました。敗血症の簡便な指標「qSOFA」を用いることで、敗血症を早期認知できる可能性があるため、母体感染症の疑いがある場合は、継続的なバイタルサインの測定と連続CTGを行い、注意深く観察していくことが必要だと思いました。

今回の研修を通して、CTGを判読する視点と母体感染症への対応について学ぶことができました。様々な症例に対応できる力を身につけ、これからも母児の安全を第一に努めていきたいと思えます。





東海大学医学部附属病院 ◆ 釜石 友世

この度は、お母さん方への指導に役立つことを教えていただきありがとうございました。どの内容からも、お母さんが妊娠期の自分の身体に興味を持ち、関心を寄せ、行動変容ができるような関わりをされていると感じ、大変興味深かったです。

私自身の経験に関連して、講義の中でとても印象に残った内容があります。それは「体重コントロール」についてです。以前、妊婦健診のときに「とにかく体重が、体重が…」と体重コントロールを頑張っているお母さんがいました。しかし、頑張りすぎるあまりに日々体重計とのにらめっこで、気疲れをしているようにも見え、そのようなお母さんに対して、どのような声かけをするのがベストなのだろうと悩みました。そんなときに今回の受講の機会があり、「体重増加の内訳を伝える」ことを学び、次の健診で実践してみました。これまでよりもより詳しく丁寧に伝えと、「へえ！こん



なに増えるのは当然なんですね。すごい、おもしろい！」と反応が返ってきました。そこから、食事のことや運動のこと、その他気になることまで、どんどん話が広がっていきました。お母さん自身が妊娠期の体づくりに、興味関心を抱くきっかけになった瞬間だったのかなと思います。また、「体重が増えないように頑張ることが、油類を控えてしまうことになり、便が硬くコロコロに溜まるのを内診で触れる。それが分娩進行に影響することがある」というのは考えたこともなく、なるほどと思いました。

このように、ひとつの事柄をとっても、様々な視点からお母さん自身が体づくりを考えることができ、それらをどれだけ助産師が引き出し導くことができるかが大切で、助産師の醍醐味でもあると感じました。

これからも頑張ります。ありがとうございました。





産科救急～出血時の対応の研修を受講し 産科危機的出血の宣言がされた時の対応を学んで

小田原市立病院 ◆ 入江 智子



昨年、分娩後出血で他院から当院に搬送され、直ちに高次施設へ搬送するという経験をした。その後この事例について勉強会やロールプレイを行った。しかしそれだけでは不足を感じ、学びを深める目的でこの研修に応募した。

榎本紀美子先生が講義の最初に、「妊産婦死亡はゼロにはならない」ことを、妊産婦死亡数・報告書作成数の年次推移・年齢別妊産婦死亡率・妊産婦死亡の原因別頻度で示された。直接的産科死亡は2010年から2019年で減っており、産科危機的出血は死亡原因第1位である。これは医療安全のために改善をしたことの調査結果で、「対応をしているから減っている」と言われていた。医療現場の対応が死亡数を減らすことにつながるため、母体急変対応の普及に努めていかなければいけないと強く感じた。

産科危機的出血への対応ガイドラインの2016年度改訂版や、ショックインデックス (SI) とその例外について、産科危機的出血の宣言、助産

業務ガイドライン2019には、産科DICスコアの確認が追加されていることを学び、常に最新の情報を取り入れることが重要といえる。そしてPPHの初期対応・PPHの管理(4T)・大量輸血プロトコールについて学ぶことができた。後半の実習は、まずはインストラクターによる、意図的に「緊急時なのに緊張感のない動き」の対応を見学した。次にもう一度「迅速で的確な対応」を見学し、その差がリアルでわかりやすかった。その後グループに分かれて実習を行った。皆さん積極的で、どの施設も安全に対する思いが強いことが伺えた。実際に点滴はどのルートからアトニンを入れるのかなど、インストラクターに質問ができて、現場そのものの実習となった。PPHの重要な原因と予防方法を学び、早期発見と迅速な対応の必要性を理解し、その管理方法を知ることができた。

この研修を受講できたことに感謝します。ありがとうございました。

看護研究

令和元年度の職能委員会では、「助産師職能委員会の企画した研修評価～研修後のアンケート調査から～」というテーマで、2014年7月から2018年3月に開催した研修後に回収したアンケートを分析し、評価を行いました。
分析した研修は以下の通りです。

年月	研修内容
2014.7	児童虐待
2014.8	胎児心拍数波形分類の判読とその対応
2014.9	産科管理者交流会
2014.12	新生児蘇生法 A コース
2015.1	最近の生殖医療
2015.2	妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病
2015.3	流産・死産時のグリーフケア
2015.7	助産実践能力習熟段階レベルⅢ認定申請
2015.9	産科管理者交流会
2015.12	胎児心拍数波形分類の判読とその対応
2016.1	産科救急 出血時の対応
2016.2	妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病
2016.3	児童虐待

2016.7	助産師として働くこと（倫理）
2016.10	新生児フィジカルアセスメント
2016.12	胎児心拍数波形分類の判読とその対応
2017.1	産科救急 出血時の対応
2017.2	妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病
2017.3	児童虐待
2017.7	周産期メンタルヘルス
2017.10	新生児フィジカルアセスメント
2017.12	思春期の性教育
2018.1	産科救急 出血時の対応
2018.2	児童虐待
2018.2	児童虐待を受けた子供たちのその後

今回、研究するにあたり、改めて、ホームページにて研究の協力をお願い致しました。

ご協力ありがとうございました。その結果は、当初第33回神奈川母性衛生学会にて発表することにしておりましたが、都合により、第22回神奈川看護学会にて演題登録しています。

今後も、参加者に満足いくような企画・運営に努めていきたいと思っています。

2019年度 助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	佐藤 良枝	会 計	鍋倉 幸
副委員長	川邊 康子		山下 祐子
書 記	長澤 聖子		中村 綾美
	長南 記志子		二見 智枝子
	藤谷 直子		関 桃
		広 報	鈴木 千秋

